

糖尿病の合併症、特に動脈硬化と喫煙は深い関係をもっています。

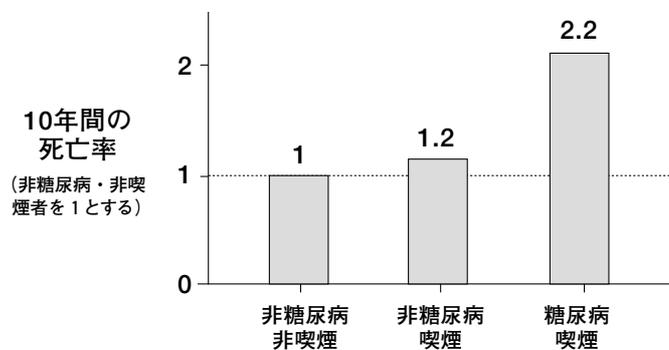
糖尿病は動脈硬化を起こしやすい病気で、糖尿病の人には心筋梗塞、脳梗塞などが多いとされています。喫煙は糖尿病患者において、動脈硬化をさらに促進させることが知られています。下図は10年間の死亡率に及ぼす糖尿病と喫煙の影響をみたものです。糖尿病の人が喫煙すると、死亡率（その多くは心血管疾患による）は糖尿病でない人のおよそ2倍に増加します。

最近の研究によると、喫煙は糖尿病性細小血管障害（より細い血管の障害のことで、網膜症¹⁾、腎症²⁾、神経症³⁾の三種類がある）にも強い影響を与えることが報告されています。糖尿病の治療には、良好な血糖コントロール

が必要です。しかし糖尿病の合併症を予防し、進行を抑えるためには、それだけでは不十分です。糖尿病と診断されたら、できるだけ早い時期に禁煙することが求められます。

■主要参考文献

- 1) Chaturvedi N, Stephenson JM, Fuller JH: The relationship between smoking and microvascular complications in the EURO-DAB IDDM Complications Study. *Diabetes Care* 18: 785-792, 1995.
- 2) Scott LJ, Warram JH, Hanna LS, Laffel LM, Ryan L, Krolewski AS: A nonlinear effect of hyperglycemia and current cigarette smoking are major determinants of the onset of microalbuminuria in type 1 diabetes. *Diabetes* 50: 2842-2849, 2001.
- 3) Forrest KY, Maser RE, Pambianco G, Becker DJ, Orchard TJ: Hypertension as a risk factor for diabetic neuropathy: a prospective study. *Diabetes* 46: 665-670, 1997.



(Suarez L al: Am J Epidemiol 120:670-675,1984)

糖尿病と喫煙が死亡率に及ぼす影響

大久保 雅 通